

## 令和4年度 自己評価表

江田島市立鹿川小学校

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)	改善策
				令和3年度	令和4年度		
信頼される「わくわくする」学校となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による不祥事を0(ゼロ)にする。</li> <li>業務改善を進める。</li> <li>保護者が相談しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。</li> <li>地域や学校外の人材を活用した授業を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の服務研修の確実な実施と過去の事例と防止策を研修内容として取り入れる。</li> <li>会議は内容を確認し、必ず始まりの時刻と終了の時刻を設定して行う。</li> <li>定期的な「便り」の発行やHPの更新を行い、取組状況や児童の状況をタイムリーに発信する。</li> <li>各学年で、地域・保護者連携を行い、地域や学校外の人材を活用した授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不適切事案の発生数</li> <li>時間外での会議の回数</li> <li>学校満足度 〔情報提供〕 〔教育活動〕</li> <li>活用回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0件</li> <li>0回</li> <li>92.5%</li> <li>全学年で29回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0件</li> <li>0回</li> <li>93%</li> <li>各学年3回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定通り、服務研修を行うことができている。不適切事案の発生数は0件である。</li> <li>時間外での会議の回数は0回であるが、事案によっては延長することもあった。</li> <li>保護者の学校アンケートにおいて肯定的評価は「学校は、学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」98%「学校だよりや学級通信、HPなどで、子どもたちの様子がよくわかる。」98%「学校の教育に、満足している。」93%であった。</li> <li>1学期終了時点で、3学年2回、4学年2回、5学年2回、6学年2回である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>服務研修等、研修や声掛けを継続する。</li> <li>会議内容の確認、精選を継続し、業務改善に努める。</li> <li>保護者からの要望等に丁寧に対応し、学級だよりや学校だよりを定期的に発行し、児童の状況等を発信していく。</li> <li>コロナ禍のため、難しい面もあるが、計画的に連携をとりながらオンラインでつなぐことも含めて進めていく。</li> </ul>
児童の学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>考える・対話する授業を全ての教科・領域で展開し、児童の資質・能力を育成する。</li> <li>自主学习等自ら学習する習慣をつける。</li> <li>生活科、総合的な学習の時間を中心に探究的な学習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書に取り組むなど、学習した単元以外に学びを生かす場を設ける。</li> <li>条件に合わせて書いたり図に描いて説明したりする表現の場を確保する。</li> <li>自主学习コンテストを実施し、学習内容等を展示したり交流したりすることで、学習意欲の向上を図る。</li> <li>課題を選択させたり家庭学習の計画を立てたりして、自分で計画的に学びを進める経験を積み上げる。</li> <li>「カリキュラム・マネジメント」を実施し、教科横断的なカリキュラム設計を行い、効果的な指導を実施する。</li> <li>「PBL(プロジェクト型学習)」に関する研修を行い、探究的な学習を計画的に実施する。(各学年1単元開発)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査正答率60%以下の割合</li> <li>児童アンケート肯定的評価の割合</li> <li>児童アンケート教師アンケート肯定的評価の割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体 32%</li> <li>国語 29%</li> <li>算数 26%</li> <li>理科 43%</li> <li>85%</li> <li>児童 87%</li> <li>教師 56%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30%以下</li> <li>90%</li> <li>児童 88%</li> <li>教師 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のお気に入りを紹介したり、自分の考えが相手に理解してもらえるように伝えたりするなど、主体的に表現する場を設けた。</li> <li>自分から進んで学習に取り組んだり、学習の目標や課題を見つけたりすることができる肯定的な評価をした児童の割合は、85%であり、おおむね目標値に達したと言える。自主学习コンテストは、児童が主体的に学習に取り組むことができる活動になっているが、一部の児童にとっては、学習方法が分からず、自主学习の質がなかなか上がらない。</li> <li>課題内容のある程度の範囲内で選ばせることで、自分に合った学習に自主的に取り組むことができている。しかし、自分自身の課題に合った内容か、または、好みに合った内容かについては不透明であり、内容の選択についての指導が必要となっている。</li> <li>他教科との関連を図るため、カリキュラム・マネジメントを意識したPBL型学習を総合的な学習の時間や生活科を軸に実施した。このことについて、教師の肯定的評価は81%とおおむね目標値に達していたが、専科教員は難しさを感じている。一方、児童のPBL型学習への肯定的評価は、86%にとどまっている。</li> <li>「カリキュラム・マネジメント」「PBL(プロジェクト型学習)」については、引き続き、児童同士の対話的な活動や表現方法の工夫などを仕組みながら実施していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主学习の内容や学習方法を児童同士共有する場を設ける。</li> <li>プリントの更なる厳選や教師側から個々に合った内容を絞り、そこから選択させる。</li> </ul>
児童の豊かな心を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識を向上させ、毎日を気持ちよく過ごす児童を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ほめる」ことを基本とした評価を行う。</li> <li>自分は「時間を守る」「大きな声で返事・挨拶ができる」という自信をつける。</li> <li>整理整頓や静かな掃除を意識させる。</li> <li>学校・地域貢献活動を行う。</li> <li>自己を見つめる道徳科の授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除に関する児童アンケート肯定的評価の割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>89%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「黙って掃除を最後まで丁寧にしている」に肯定的回答をした児童は、83.3%であった。</li> <li>コロナのため、縦割り掃除ができないため、上級生の姿から学ぶ機会がなかった。</li> <li>「時間を守る」で89%、「近所の人や家の人にあいさつができる」で93%の児童が肯定的回答をしており、肯定的評価の割合は91%を超えている。</li> <li>8月のアダプト活動で学校の草取りや学校周辺のごみ拾いを通して、学校や地域のためにできることを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除の反省で、頑張って掃除をしていた児童や、どんな掃除の仕方がよかったか、相互評価させる。</li> <li>黙って最後まで丁寧な掃除ができていた児童に、肯定的評価をする。</li> </ul>

<p>児童の体力向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>握力及びボール投げの種目において、体力向上を図る。</li> <li>健康体力を高めるための生活習慣の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業間運動を継続的に行うことで、「握る・つかむ」、「投げる」などの基礎感覚や動きの習得を促し、基礎体力の向上・定着を図る。</li> <li>運動の幅の拡充を図るために、主として体力づくり運動系の領域に視点を置きながら授業改善を図る。</li> <li>生活時間を意識させ、健康の保持増進のために生活調べを行う。(早寝, 早起き, 朝ごはん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト・各学期の再計測の県平均を上回る割合</li> <li>児童アンケート運動好きと答える児童の割合</li> <li>生活カード</li> </ul>	<p>69.4%</p> <p>92%</p> <p>76.7%</p>	<p>70%</p> <p>93%</p> <p>80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県平均を上回る割合は「ソフトボール投げ」で42%、「握力」で33%であった。</li> <li>「運動が好き」と答えた児童は、89%である。</li> <li>「やや嫌い」と答えた児童が低学年で4人、高学年で7人であった。</li> <li>生活カードの結果は、78.4%であった。</li> <li>早寝 65.2%, 早起き 74.7%, 朝ご飯 95.5%であることから、朝ご飯はよく食べているが、早寝に課題がある。</li> <li>生活カードの結果を受け、養護教諭から保健集会にて、「睡眠の大切さ」を児童に分かりやすく指導した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>握力計と各学年の目標値を職員室前に設置し、児童がいつでも握力を測れる環境づくりを行う。</li> <li>体育主任を中心に、職員や各学年の児童の発達段階に合わせた「握る・つかむ」、「投げる」研修を行う。</li> <li>体育委員を中心に、投げる運動を取り入れた、楽しい遊びを紹介し、運動が楽しいと思える児童を増やしていく。</li> <li>1学期の生活カードに、児童に合わせて「2学期は〇〇を頑張ろう。」とコメントを返すことで、2学期の生活習慣の定着に向けて意欲を高める。</li> <li>メディア時間の目標時間を書かせ、メディア時間が多くならないようにすることで、早寝できるような環境を作る。</li> <li>1学期の生活カードで明らかになった自分の生活の課題を明らかにさせ、それを基に2学期の生活カードの目標を立てさせて、取り組ませるようにする。</li> </ul>
--------------------	---	--	---	--------------------------------------	----------------------------------	---	---